

持続可能社会をつくる若手の「志」に学ぶ VOL1

「みんなの声をカタチに！そして笑顔に！」

ゲスト：斉藤順子さん（特定非営利活動法人アジア日本相互交流センター事務局）

インタビュー：新海洋子（EPO 中部）

参加者数：22 人

○参加者のみなさんの「志（今年の抱負）」を漢字一文字で表してください！ 鞆飼哲（EPO 中部）

盛	なにごとでも盛んに挑んで気持ちを盛りあげたい 盛りをつけよう 果敢に挑もうという気持ちです。
熱	どんなことにも「志」をいれていく。仕事も、家族のコミュニケーションも友人ともそうですが、全部一つ一つのプロセスにおいて、昨年はぶっ飛ばしてきた活動もあってプロセスに熱がはいらなかった。一つ一つのプロセスに熱をいれていく コミュニケーションをとっていく
忙×	忙しいという字に×をした 忙しくない、忙しいといわないという気持ちをこめて。「ゆったり、じっくり、どっしりと、のんびりじっくりと」、今年は物事をすすめます。心を亡くしてしまうので。
挑	何事もやってみることからはじめようとの字を選んだ。去年をふりかえると守りの1年だった。わからないまま、去年のとおりのことをしていただけ。守りをすてて挑戦する一年、攻めの1年にします。
貫	言葉では簡単には言えるけど実行してやりとげるのは難しい。ひとつのことをやりぬくという目標である
聞	なにごとまずは聞いてみよう。自分の中だけで考えるのではなく人に回りに聞いてみよう。聞いてみてから、できるできない関係なく挑戦しようというのが今年の思いです。
愛	いくら頭がよくても、お金があっても、愛がないともめるものです。宗教は本当は愛が始まりなのにも関わらずもめていておかしいところがあるかもしれないけど、お金とか名誉とか地位とか財産を求めることをやめようと思ってから私は世のなかが明るくなった。明日食べる物が無いということもあったけど自分のやりたいことを一生懸命やると、悲しいというのではなく笑えてきた。そしてそういうときには誰かが助けてくれるので不思議だった。
再	昨年転職をした。再生したいという気持ちです。再起をかける。新しい戦場でがんばってみようかと。
歩	去年忙しすぎているんなものを落としながら突っ走ってきた。今年は一つひとつ片付けてから次に行きたい。
決	去年他の学部に行きたいと思ったけど受験もできなかった。今年は決断をして行動したい。
和	平和とかなごやかとか、和という言葉が好きです
喜	去年まで食べものにはあまり興味がなかったけど、マクロビオティックに出会い、こんなにも幸せな気持ちなれてやさしい味があると知った。人に幸せな気持ちになってもらうには食事はわかりやすいと思い、料理教室を始めた。去年自身がえた喜びをまわりに伝えたい。食べてもらえるように料理の練習をしたい。
進	前向きに進んでいきたい。去年はいっぱいだった。はじめた仕事も大変で、生活もマンネリで、恋愛についても手痛い思いをした。後ろ向きだった。30歳になるので30年生きてきて多少は残っているものがあるので活かしてもう1歩前に進んでいきたい。
前	今よりも今年は前向きに進みたい
好	何かしようと思ったり、誰かのために何かしたいと思ったとき、は好きという気持ちがあるはず。好意をもって接する自分になりたい。
輪	人とのつながりを大切にしたい。いろいろな人と出会ってはいるがつながっていないようで。なまけているのでしっかりやっていきたい。
穏	ちょっとしたことでいらっしやがち、ストレスがたまりがち。人にそういう気持ちを与えないようにしたい。穏やかな気持ちでいたいなと言う気持ちをこめて

## 【トークセッション】

みんなの声をカタチに！そして笑顔に！

ゲスト：斉藤順子さん

(特定非営利活動法人アジア日本相互交流センター事務局)

インタビュー：新海洋子 (EPO 中部)

新海：みなさん、こんにちは。斉藤さん早速ですが、簡単に自己紹介を。

斉藤：フィリピンを支援している斉藤といいます。人前で話すのはあまり得意ではないけどおつきあいください。

新海：皆さんのお手元に志 NOTE というペーパーがあると思いますが、斉藤さんのヒストリーが書かれています。それに基づき、お話おききたいと思います。現在 ICAN という NGO で働かれています、何を実現しようとしているのかという志を知るために、小中学生の頃の斉藤さんの関心事をお聞きすることから始めたいと思います。今日の「みんなの声をカタチに！そして笑顔に！」というキャッチコピーのゆかりも知りたいです。よろしくお願ひします。

新：まず小中学生のときのことを…。ペーパーには根っからのテレビっ子、おじさんとの出会い、英語大好きとありますが。

斉：外に出るのが好きではなかったんですね。運動も得意じゃないし。本を読むかテレビを見るかでした。家の近くに大きな公園とかなかったので必然的に家の中にいましたね。でも静かなのが嫌いだったんですね。シーンとされていてかたっとか音になるとドキッとしてしまっ。いつもテレビをつけていました。地元が大須なんです。町がにぎやかですから。

新：おじさんとの出会いとあるけど、どんなおじさんだったの？魅力的なおじさんだったのですか？

斉：あまり外で遊ばなかったんですけど、近くに若宮大通公園、高速道路にある 100 メートル道路の中央分離帯に公園ができたんですね。その中に気で作った遊具、冒険とりでっていうのがあって。それは子どもたちに大人気だったんです。近所の友達とよく遊んでいたんです。ある日あきらかにそこを住処にしているおじさんがいた。風貌

は千人のようで白髪ぼうぼうでひげぼうぼう。においもちよとして服も変えていない様子。たぶんお風呂にも入っていないからでしょうね。おじさんに、何してるの？って聞いてみたら、「うるさい！」って言われて。遠巻きに見ていました。箱がならんでいて迷路になっている遊具の中に、ある日入ろうとしたらおじさんが住んでいたですね。また違うおじさんが。また怒られると思って、声をかけずにさっとひきました。でも学校で噂にはなっていました。仲良くはならなかったけれど、おじさんが生活していて、私たちは遊ぶというなんか不思議な空間でした。

新：英語大好きっていうのは？

斉：英語がなんだか好きだったんですね。

新：「将来の夢は刑事！」「お金持ち日本にどうしておじさんが？」というのは？

斉：そのおじさんは昼も夕方も公園にいて、仕事をしていないのは明らかだったんですね。ご飯を食べているところも見たことないし、お風呂にもはいっていないということが小学生にもわかった。学校で先生に話すとあの人たちは違うから、と言われてあまりしゃべらないように、危ない目にあうといけなから公園に行かないようにいわれたんです。私が小学生の頃はちょうどバブルで日本は豊かだといわれていたのに、生活が苦しくて食べ物もない家もないっていうのはどういうことなんだろう、とても不思議でした。

小中学生のときは刑事が夢だったんです。家の周りはひったくりや犯罪が多く治安がよくなかったんですね。テレビっ子だったので小中学生の頃から 2 時間ドラマ、火サスとか七人の女弁護士とか悪い人をやっつける正義感ものが好きだったんです。



新：多感な小中学生時代だったんですね。高校生のころはどうだった？高校生フェスティバルとあるけど。

斉：高校生フェスティバルっていうのは、愛知県の私立の高校生が集まって、私学をよくしていこう、という動きです。

本体は先生が主体になって、補助金を減らさないでといったことを考える会をしています。高校生にもできることがあるだろうということで、私立の紹介イベント、ミュージカルとサマーセミナーなどをしていました。サマーセミナーは市民が講師になって学校では学べないことを学ぶというものです。高校生フェスティバルでは実行委員をしていました。

他の高校生と交流する機会がないな、おもしろそうだな、と思って参加しました。いつのまにか、インドアな子がアクティブになっていましたね。

高校生フェスティバルの一環で阪神大震災 1 年後の神戸に訪問するボランティア活動に参加しました。ボランティアをやったことがなくて、神戸に行けるという気持ちで参加してしまっただけです。高校生 100 人くらいが深夜バで神戸に行く、って遠足気分であっさりして行ってしまったんです。結局何もできなかった。事前に研修もなかったし、どういうことをするという説明もなかった。結局騒いで帰ってきただけ。現地で衣服の仕分けをされていてキャーキャー騒ぎながら作業をしていたら、みかねた地元の人が何をしにきたんだ、遊びにきたのか、ボランティアにきたのかって怒ったんです。考えが甘かったんですね。ボランティア活動は楽しくできることは前提だけど、相手を思いやるという気持ちがないといけな。行く目的がきちんとわかっていないと何も生み出さない。お互いに不和をうんでしまうということを思った。そこでボランティアというのは難しいと感じました。



海外ドラマに入るっていうのは、英語が好きということと共通していて海外の生活に興味があったんです。海外に行くこともなくテレビで情報を得るしかなかった。はまったのはピバリーヒルズ高校生白書です。アメリカの高校生の生活をテーマにしていた番組で、アメリカ＝海外 アメリカ＝お金もちの高校生が遊びほうけているというイメージでただアメリカに行きたいと思っていました。海外はすごいなと思っていた。日本と違って、こういう生活っておもしろそうと思って英語を勉強していました。

とにかく英語が好きだったんですね。って英語コースにすみません。そのときの先生がちょっと変わっていて、先生の興味のあることを若い女子高生に伝えたいと、教科書を使わずに社会問題をテーマに授業をしていた。この先生が私の人生に影響を与えた人です。先生が取り上げたのは、カンボジアのポルボト派の大虐殺や南アフリカのアパルトヘイト、イギリスの階級社会、マルコスXなど社会問題をネタに英語を学ぶという授業でした。

その授業の中で、児童労働という項目があってショックを受けたんです。海外＝アメリカ＝すごい、というイメージが崩された。海外というのはアメリカだけではなくいろいろな国がある。ピバリーヒルズのような暮らしではなく虐げられた暮らしをしている人がいるということに影響を受けた。

英会話の先生にもとても影響を受けた。その先生はたまたま父が知り合いの披露宴でとなりに座った人のパートナーだったという方で、個人レッスン塾だった。とてもおもしろい方で反ブッシュなんですよ。毎週のようにブッシュがよくないという記事について教えてくれた。アメリカでおきている格差の問題を教えてくれる先生だった。アメリカ＝ピバリーというイメージがいい意味で崩れました。超大国の中でいろいろな問題を抱えているんだと。先生は日本の社会問題をきいてくるんですね。先生に伝えられるように新聞を読んだり、学校で習ったことを先生に伝えていた。そこで勉強をしたので社会派になっていったんですね。世界の課題について入ったきっかけですね。

新：そのときの気持ちは？

斉：私って何にも知らなかったって思いましたね。テレビが好きで、ニュースや海外ドキュメントを見ていたけど全

然知らなかった。でも知ろうと思えば知ることができるということを知った。テレビは受身だと、流れている情報だけを聞いているだけ。自分で探そうと思えば、知りたい情報、テーマを知ることができる。映画も本もテレビもある。知ろうと思えば知れる環境にもあることを知ったんです。

**新:** 動きたくならなかった？インプットばかりでアウトプットしたくならなかった？

**斉:** 課題を知って、課題は自分の責任でもあるということと同時に教わった。何かしなくてはいけないと思った。

**新:** 何をしたいと思った？

**斉:** 海外にいて自分で直接何かをしたいと思っていましたね。海外に行って医療支援などをしたいと思っていました。

と思っていたときに、高校3年生でしたね。12月に先生が炊き出しという活動があるんだけど行って見ないかと誘ってくれました。先生に炊き出しってなんですかって聞いたら、ホームレスという人がいるので、その人たちにご飯を提供する活動なんだと教えてもらいました。貧困という海外の問題とも思われがちだけど、日本にもある。小学生とのときから気になっていたので行ってみようと思った。高校3年生の受験の時期だったけど息抜きにしてみようという思いもありました。

初めての炊き出しは楽しかったですね。正直な感想です。生のキャベツサラダにドレッシングという食事をつくりました。今考えると真冬にサラダといのは、しかも生か固いし食べれない人もいたんですよ。嫌なチョイスでしたよね。でも私たちにできる料理といえば、包丁でキャベツをきるくらいしかできなくて。学校の調理室を借りて、切って運んで持っていったんです。たぶん食べたくなかったしおいしくなかったでしょうね。でもおじさんたちは、普段野菜を食べていないからおいしいよって言ってきて。クリスマスということで少し盛り上げようって、なぜかお誕生日の歌を歌って。殴られたり追いかけられたりといった経験なんてないのに、おじさん＝怖いといったイメージがあって、先生や近所の人たちからあそこから近づくなと言われ先入観で怖い人たちと思っていたけど、参加して初めて、おじさんも普通の人だと、お父さんやおじいちゃんと同じ年代の人たち、話す内容も一緒だと思ったんです。

**新:** 炊き出し活動をしているの思い出に残るベスト3は？

**斉:** 野宿しているおじさんの多くは日雇い労働、建設労働者なんですね。お酒が好きな人が多いです。理由はいろいろだけどストレスをまぎらわすんでしょうね。お酒を飲むと気が大きくなって「気に入らない人との殴り合いのケンカが始まるんです。自分の目の前に人が殴られているのを見たことがなかったのでびっくりしましたね。

ちょっと痴呆がはいっててぼけたおじさんがいたんですけど、仲良くしていたんですね。そのおじさんは痴呆がかかっていたので支離滅裂なことをよく言っていたんですけど、昔はすごかったんだという武勇伝をよく聞いていたんです。ある日炊き出しに来なくなりました。そういうこともあるよねって思って気にしていなかったんですね。そしたらおじさんの友達が近寄ってきて手紙を渡してくれました。手紙を見たら、おじさんは病気で入院をしています、木曜日になったら抜け出してあなたに会いにいきます、と書いてあったんです。気力が弱るけど、毎週話をすると元気になると。いつも「俺の彼女に会いに行く」と口癖でいっていたようです。私は炊き出し、ご飯を出しながら、『おじさんたちの生活改善をしているわけではない、この生活から抜け出すお手伝いをしているわけではない。何の役にたっているのか。もっとできることがないのか』といった悔しいジレンマを持つようになりました。でも話すだけでも元気になってくれるんだっただらと思って続けていました。

おじさんたちと接していておじさんたちはお金もモノももっていない。ガッツだし。でも本当に貧しいのかなと思うようになった。心まで貧しいんだろうかと。日本が豊かかっていう現状はどういうことをいいのかなって。本当の豊かさとはなんだろうと思うようになったんです。日本だけではなく、世界の現状ももっと知って変えていかないと。私たちの水や道路や建物をおじさんたちはつくってくれているんです。その人たちを犠牲にして生活をしているのではないかと考えるようになりました。かわいそうだねって思うだけではだめなんだ。私たちの意識が変わらないといけない。変えないといけないと思った。人のためになる職業に尽きたいと思うようになりました。

高校生のときは、目が海外にいたので国連の職員などになりたいと思いましたね。そのうち、人と直接話しを試みなくてひとつのことをするのが好きだったんで、一

緒に市民レベルでみんなで楽しく何かをするということに向いていると思い始め、大学生のときはNGOがいいかなと思っていました。

**新**：大学生のときは何をしていたの？

**斉**：大学のときは炊き出しをするサークルが大学の中にあっただけです。毎週1回炊き出しのお手伝いをしながら、同年代の人たちに知ってもらおう活動をしていましたね。講演会をしたり、学園祭のときにおじさんの写真展をしたり。あまり人はこなかったですけど。でも同年代の人たちに知ってほしいという気持ちで動いていました。このサークルができたコンセプトは、テニスサークルに行くように炊き出しに行く、でした。ホームレスのおじさんにご飯をだすなんて変わってるよね、と言われることが多いけど、テニスするのと同じようにボランティアにいてほしいということなんです。同年代の人たちに特別なことではなく身近なことだと捉えてほしいなと思っていました。若い人たちが活動をしていると、通りがかりの人も目を留めてくれていましたね。

**新**：それからNGO職員を目指したの？Nたまでは何をしていたの？

**斉**：大学卒業後大学院に行こうと思っていたんだけど、どうしようかなと、語学留学にでも1年間以降かなと思っていただけで、自由になる時間がほしかったので稼ぎも将来性もないけどフリーターを選び2年間しました。突発的にしなくなったこともできるし。そこでNたま、NGOのたまごの略なんですけど、NGOスタッフになりたい人の研修の記事を新聞に見つけたんです。Nたまは、ネットワークNGOといわれているなごやNGOセンターが主催していて、NGO団体での半年のインターンシップ講座、海外研修を実施しています。どういう団体に行けるのかと見ていたら、アイキャンがあって、一番興味をもちました。児童労働、世界の子どもの状況、日本の貧困、海外の貧困、都市の貧困、子どもの支援、そういったテーマで活動しているアイキャンでインターンできるのならと思い応募。講座や海外研修で1ヶ月フィリピンにいきました。NGO職員になりたい人のため、といいながら研修後に就職が保障されているわけではないんですね。他に行きたい人も団体もなかったんで、そのままアルバイトをしながら、

アイキャンで州2回インターンを1年間しました。アイキャンは簡単に説明すると、フィリピンのパヤタスという地域でごみ山からリサイクルできるものを探し換金している人々が2-3000人いるのですが、その人たちの無料の診療所、職業訓練、里親支援をしています。フィリピンは義務教育なので教育費は国からですが、鉛筆・ペン・制服などを支援しています。

NGOって派手なイメージがあったけど、仕事の80%は地味な作業の積み重ね。その地味な作業がとても大事でそういうところがないと活動が成り立たないことを実感しましたね。1年間ラベルはり、宛名書き、お礼状が気という作業をしました。お礼状を書けば、私も協力すると言う人が増えてくる。直接体感できていい活動だなと思えた。行政とNGOの事業が金額的に規模が違います。でもNGOにはNGOにしかできない支援があります。

アイキャンにどうしても就職したいとは思っていませんでしたが、活動には関わってみたいと思っていましたね。ちょうどそのときなごやNGOセンターで職員募集していたので、アイキャンの代表の人が今はアイキャンでは雇えないからNGOセンターで修行してきたら、と1年半という契約で就職しました。NGOセンターはネットワーク団体なのでいろいろな団体を見ることができると思い決めました。でもインターンと職員は仕事の責任の重さがまったく違っていました。インターンのときは、時間がないからできませんと言えたけど、職員には許されない。ひとりでなんとかしたいといけない。一緒に仕事をしている人のことを考えないといけなくなる。とても勉強になりました。特にメールは慎重になりました。何でも便利だからと使っていてはいけません。便利だから簡単に済ませようとすると失敗する。人と人のコミュニケーションはメールではだめだと。直接声を聞いて話をする、電話だとうまくいくこともたくさんある。

人のつながりは重要だと思いました。縁を大切にしないと。あとはNGOセンターはネットワークなのでいろいろな活動スタンスの人が多かったんです。ひとことで海外を支援している、海外支援、国際交流といってもいろいろなアプローチの方法があると学びました。それぞれいい悪いではなく、団体が大きい小さいということでもない。それぞれの活動・団体を尊重することが大切だということは見えてよかった。

新：それから 1 年半たってアイキャンに就職したんですね。

斉：前の職員が退職する、職員を探しているということで、私もNGOセンターの契約が終わるので去年の 4 月より職員になりました。まだ 1 年たっていないんですけどね。今有給のアイキャンスタッフは 3 人です。フルタイムが私一人、あとはパートスタッフが 1 人と経理が 1 人です。とにかくなんでもかんでもやらなくてはいけないので大変です。でもいろいろな人が関わる団体なのでおもしろいです。

新：たくさんの人を笑顔に、名古屋のあたたかさ、伝えることの大切さ、理想と現実のギャップと書かれています。

斉：たくさんの人を笑顔に、を志にしています。名古屋のあたたかさというのは、私は名古屋しか知らないんですね。NGOセンターにもアイキャンにも、何も知らずに入ったのでミスが多いんですよ。でもNたまさんねということいろいろと教えてくれる人がいる。会社では怒られるようなミスをして、NGOの人は愛をもって忍耐強く教えてくれる。アドバイスをしてくれる。そうやって次の世代を育てようとしている人がいることに感謝です。その人たちが思いを持って活動していることは心強い。困ったときに、だれだれに聞けばわかると思いつくので心強いです。これからも育った名古屋ですっと活動をしていきたいと思っています。

反面難しいと思っていることは、現実を伝えることは重要だと、活動して伝えていくことは大切だと思っています。でもアイキャンの仕事で学校に行くと、みんながみんなその活動に興味があるわけではない。いかにうまく伝えていくかが難しい。興味のある人に興味のあるテーマを話すのはある意味苦ではないですよ。でも世界を変えていきたいと思うと、興味を持っていない人が多い中に踏み込んでアプローチしないとイケない。でも難しいです。アイキャンに、授業で行けといわれたから名駅に近いから着ました、という学生がいる。質問は？と聞くと、ありません、って。そこにどうアプローチしていいかわからない。レポートを書けるだけの資料と説明のみという形になってしまう。興味を持ってもらえるように、活動に参加してもらえるように、頭の片隅にもってもらえるようにはどうしたらいいの

か私の課題です。理想と現実のギャップですね。やってみたいことはたくさんあるけどお金とマンパワーの問題でできないことが。能力の限界もありますが。なんでもできるわけではないので、バランスをとってやっていきたい。小さな組織ですから。スタディツアーも何のためにやっているのか見失いがち。実際のところ稼ぎ柱の事業なんですよ。現実を知ってほしいという気持ちとお金になるという気持ちが混在するんですよ。

新：ストレスは？

斉：それなりにあるですよ。スタッフ間のコミュニケーションも難しい。やりたいことをしたいというスタッフの思いがぶつかる時もあるんです。そのことにいらいらしたり、おちこんだり。きっとどの仕事でも同じなんですよ。

社会に対しても、新聞をみると万博のためにホームレスを追い出しますとか生活保護を少なくしますとか。彼らのためと言いながらなっていないと思われる施策ができること。ホームレス襲撃事件も、フィリピンの地すべり災害も。貧しい画ゆえの犯罪、在日フィリピンの人たちの話。なんでこういう風にしかできないんだろうと思ってしまいます。



☆ここから、アイキャンの紹介DVD鑑賞。

## ○参加者からの質問タイム

Q：フィリピンは環境汚染のためにごみを燃やしてはいけないのですか？

A：クリーンアクト法という法律があります。政府の見解ではダイオキシンは環境によくないので燃やしてはいけないとのこと。

Q：日本はダイオキシンがでないように燃やしていますよね？

A：そういった設備をいれるのにお金がかかりますよね。ごみの量が多いのでそ処理するだけの焼却炉がない。お金の余裕がない

Q：捨てる前に分けて集める方法はされていないのでしょうか？

A：一応捨てる前に燃える、燃えない程度は分けていますね。でもフィリピンのお国から最後は分けても一緒にしてつんでいってしまっています。場所がいっぱいになれば移ればいいという感覚ですかね。土地があるので。政府も最後はごみの山に土をかぶせて木をうえて森にしようと考えているみたいです。化学反応で有毒ガスもでていますよね。自然発火もあるようで。政府はメタンガスを有効活用しようとエネルギーで発電という政策をとっています。根本的にごみの山をなくそうということにはなっていませんね。

Q：活動資金は？

A：アイキャンはNPO法人格をもっていて、会費が4割、寄付金が3割、助成金が3割です。会費と寄付金だけではまかなえないです。シャイカなどに助成金の申請をしています。他の団体から助成金が取れないがために職員を減らした、事業を減らしたということを知ります。危険性がないわけではないです。助成金に頼らずに自己資金でいきたいけど難しい。

Q：アイキャングッズは？

A：さきほど映像で紹介された14人のお母さんが作っているくまのぬいぐるみ、もじゃこぬいぐるみ、エプロン、鍋つかみ、はしぶくろなどをイベントで販売しています。風'Sというフェアトレードの商品を扱うお店にも置いています。売り上げは現地の人のものになる 医療支援にまわっています。

## ○参加者の感想タイム

最初に皆さんに発表してもらった志の文字をつないでいくことが大切です。斉藤さんからメッセージをもらったの感想、斉藤さんへのエールを一言聞かせてください。

\*ごみ山のことは聞いてはいたけど見たことがなかった こんな現状なんだということを知ることができた。ホームレス人に偏見をもっていた。炊き出しに行ってみようかと思った。

\*フィリピンの方が会社で働いていて。子どもたちの様子を見ると知らない部分があるなど気づいた。

\*国際協力はお金がかかりますよね。渡航費だけで15万円かかる。事業費は1000万円ほど。飛行機代と通訳代がかなりの部分を占め、現地の人に何もできない状況になりがちです。日本で何かをやろうとすると100万円単位でできるけど桁が違います。貴重なお金を使っているのに、そのあたりどう思われますか。

→確かに向こうに行くのに費用がかかります。でも現地の日本人が日本で報告会をするときのほうがもっとお金がかかる。お金の価値がちがうから。私たちは必要経費だと思っています。そういうお金を出そうというコンセンサスをとっています。日本人スタッフと現地スタッフとのコミュニケーションは不可欠です。団体のためにはいいと割り切っています。安く抑えるようには努力していますが、支出は惜しまないようにしています。

- \*今の映像をみると日本もかつてはそうだった。こういった活動は関心しない。今の日本からするとフィリピンの状況はすごいと思うけど、日本はそれを現実に乗り越えてきた。日本でもあったこと。そういう点はなんとも言えない。
- 何度もそのようなことを言われたことがある。日本はその状態から今の状態になった。フィリピンには発展する希望がないということが問題だと思う。
- フィリピンの人にはそういう気がないのだろう。
- そういう気が起こらない状況になっていることが問題だと思うんです。日本で経験アドバイスを聞かせてほしい。
- 考えが根本的に若い人たちと違うと思う。かつていいことをしようという時代ではなかったし、現実に生きるのに必死だった。どういつもりでやっているかということがわからないし、想像がつかない。考えが離れているように思う。いいとかわるいとかではなくて。
- 日本から見ると気の毒に見えるが、その中にいるとそうは思わないものだ。ホームレスも楽しんでやる人もいる。おいしいものを食べたいという興味のない人もいる。ホームレスを好きでやる人もいる。それを応援するというのはかえってうるさいという感じがある。なかにはそういう人もいること、そういう考えの人もいることを忘れてはいけない。ボランティア的な考えの人が多いほうがいいけど、いいことをすれば全部いいというわけではない。
- \*とても自然体で取り組んでいっしょるのがいい。力がはいていないといいなと
- \*人のために何かをする仕事をされているけど、私は自分の意思が先行してなかなかうまくいかなかった。成し遂げようとしている意思が大事である。
- \*環境一筋の人間。環境への思いが強すぎると相手に受け入れてもらうよりシャットアウトとされることが多い。斉藤さんのように、やわらかく行くことが大切だと思う。私は3年前に比べればまろくなったと思っています。
- \*斉藤さんが2年間フリーターでやりたいことを探していたということを知って、自分もゆとりをもって、大学卒業してからまた進む方向をきめてもいいのかなと気持ちに余裕がもてました。
- \*心の奥底にあるものが深いなと思った。好きなテレビ番組は？
- 最近深夜にやるやくざ映画を見ている。ストレス解消になっています。理由はのちほど
- \*こういう活動をしていることを知らなかった。ホームレスの炊き出しをしていることやアイキャンを知ってもらうことが大事。知ってから反対だという意見は大切だ。賛成と言う意見も大切。無関心でいることがだめだと思う。ここにいる人すべてがえらいなと思った
- \*すごいすごいな、と思っていた。でも斉藤さんはそんなにすごいことをしてると思っていないんだなとも思った。好きなことをしている、いやいやしているわけでもない。強いられてやっているわけではない。知れてよかった
- \*炊き出しをやってみたい。ちょうど調べていたところ。毎週決まった時間に曜日に行かないといけないし、夜の公園に行くのは怖いなと思っていた。二の足を踏んでいただけ怖くてもやってみようという気持ちになった
- \*自然体でやってみるのがすごい。フィリピンの話、フィリピンの映像を見て、みんな、子どもたちもたくましくたんたんと仕事をしている。ほーと生きているから、私よりたくましいと思って見ていました。
- \*いろいろな場面で興味を持って、今の自分のために一歩一歩進んでいると思った。自然体であること。興味のあることを自然にできるってすごいなと思った。
- \*高校生のときから炊き出しに参加していたなんて。考えたことはなかったすごいなと思った。
- \*話を聞いて知らないことばかりだったので。今日の話で受身では知れないことがあると実感できた。
- \*まわりから見たら現地の人のためにやっているに見えるが、自分が好きやっている、そういう人のためという意識はあまりないのかなと思った。人が思っているより、まわりが思っているより、そういった意識が薄いのでは。そのことがより現地の人のためになっていると思う。
- \*炊き出しを5-6年していて、ホームレスの人の生活改善につながっているのかなと疑問に思いながらやってい他という話で、別の人と同じことを言っていた。やりかたがいろいろあって答えはひとつではない。続けていることがすごいなと思った

新：最後に斉藤さんの志とその表現、今後の展望をご紹介下さい。

斉：みんなの声をカタチに、と題しましたが、フィリピンの人たち、ホームレスの人たち、苦しい現状にあるけど苦しいよ、助けてと自分で声にできない人たちの声を伝えたい。私は、介護し医者でもないし、英語もそんなにできないし、直接できることはとっても少ないんです。私ができるのは彼らの代弁者、おこがましいけど、彼らの声にならない声を伝える、 間に入ることだと思っているんです。自立と言う言葉も好きではないけど、彼らのためにできたら、みんなで作っていけたらと言うのが志です。

今後やってみたいことは、次世代を担う、次の世代の子どもたちにこの現状を知ってもらいたい。今後子どもたちに伝えていきたい。そういう機会をもちたいです。

志の表現として、ひとつめは高校で使っていた教科書。児童労働について興味を持ち始めたきっかけです。いろいろ

な問題の中で子どもが苦しい常態にあるのは変えたい。私が小学校のとき6歳のとき、ランドセルをもらえてうれしい、こんなものがほしいということしか考えていなかった。家計を助けるために労働をしているなんて。昔の日本ではあたりまえだったかもしれないが、可能性をもっている子どもの未来が開けない状況をなんとしても変えていきたい。

それとはじめて買ったハードカバーの本です。

そして、ホームレスのおじさんにももらった手袋。炊き出しにきていたおじさんがある日、職を見つけたんです。そして初めてもらったお給料で、私に手袋をくれた。炊き出し作業中に寒い寒いって言ってたからかな。100 ショップで買ったとは思うけどうれしくて。渡されたときの笑顔がステキで印象的で忘れられない。フィリピンの人の笑顔もステキ。笑顔をいっぱいみたい。笑顔になれる社会になればいいなと思って活動をしています。

## ○最後にインタビューより

炊き出しに行きたいと思ったら斉藤さんを誘えばいい。一人で行こうと思ったら二の足を踏む。フィリピンに行きたいと思ったら、斉藤さんが忙しかったら斉藤さんの友達を紹介してもらえばいい。一人ひとりすごい力をもっていますよね。人に聞くことから一歩を踏み出せるはず。踏み出さなくても済んでしまうことが多い中で、やっぱり一歩を歩みたいと思うのならば、ちょっと人に聞くことで新しいことは始まると思う。考え方が違う人がたくさんいて、話せる仲間がたくさんいたほうが、社会が豊かになりますよね。みなさんから今日いただいた志の一文字、つなげて今年新たなことにチャレンジしたいと私も思っています。

